

目次

ア. 計画条件の整理

1. 計画説明書	・・・01
----------	-------

イ. 総合

1. 配置計画	・・・02
2. 平面計画	・・・03
3. 地域開放・セキュリティ計画	・・・04
4. 透視図の写し	・・・05～07

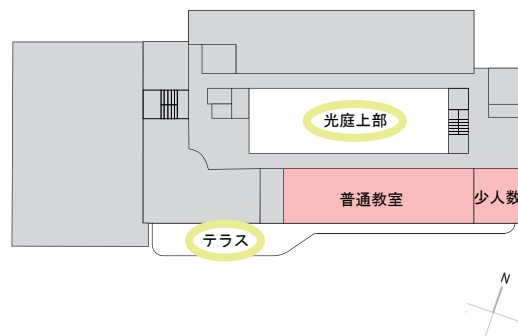
ア. 計画条件の整理

1. 計画説明書 ～新しい時代の学び舎のグランドデザイン～

(1) 健やかな学習・生活空間

子どもたちの社会性・人間性を育む場として、ゆとりと潤いのある快適な空間を創造します。

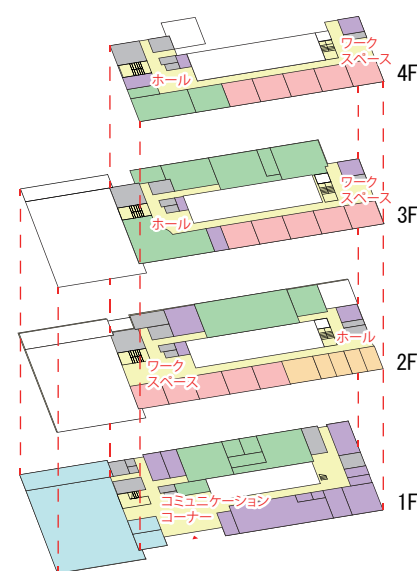
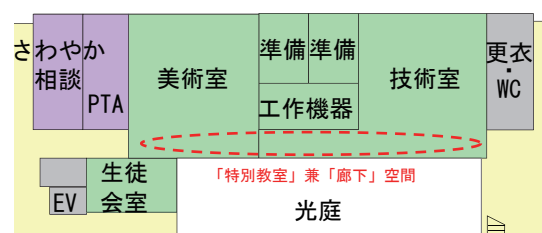
- ・良好な学習環境を確保するため、普通教室を全て南面に配置します。
- ・校舎中央に光庭を設け、校舎全体に光が入りやすい環境を創出します。また随所にテラスを設けることで屋外空間も積極的に活用します。
- ・広大な校地を最大限利用した外構計画を行います。



(2) 柔軟で創造的な学習空間

教室のみならず、学校施設全体を学びの場として、多様な学びの姿に対応できる空間を創造します。

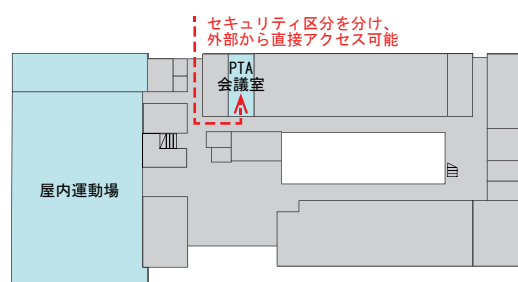
- ・廊下の随所にワークスペースやホール、コミュニケーションコーナー等のスペースを設けることで、少人数の打合せ等多様な学びの姿に対応可能な計画とします。
- ・廊下一体型の特別教室を設けることで、学びを教室内で完結せず、学校全体に波及させる計画とします。
- ・生徒・先生の意見を取り入れたデザイン・プランを計画します。



(3) 地域とともにある共創空間

学校と地域や社会が連携・協働できる場として、交流できる空間を創造します。

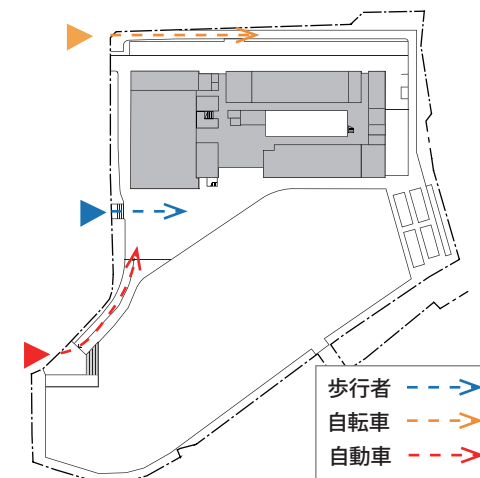
- ・屋内運動場は地域開放を行う他、災害時には避難所として地域住民を受け入れます。屋内運動場単体でも使用可能なようにセキュリティ区画も明確にわかる計画とします。
- ・地域住民の会議室として想定するPTA会議室などは、外部から直接アクセスできる計画とします。



(4) 安心・安全な教育環境

未来を担う子どもたちの生命を守り、健やかに成長できるよう、すべての子どもたちが安心・安全に生活できる教育環境を目指します。

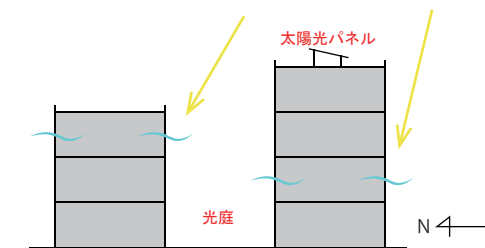
- ・歩行者、自転車、自動車の動線をわけることで安全な登下校が可能な計画とします。
- ・教員が生徒を見守ることができるよう、グラウンドに面して職員室を配置します。
- ・敷地内に車両をいち早く導き、幅の狭い西側道路の交通環境改善を目指します。
- ・緊急車両や大型車両が出入りしやすく、敷地内で転回できるスムーズな動線を計画します。
- ・耐震性を確保し、地震が起きても安心・安全な校舎とします。
- ・見通し確保やセキュリティ管理のしやすいプランニングを検討し、防犯対策に配慮した計画とします。



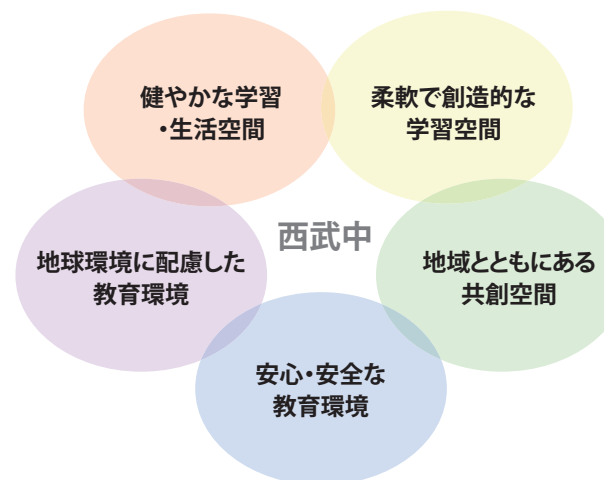
(5) 地球環境に配慮した教育環境

2050年脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入を推進し、環境教育での活用や地球温暖化対策に取り組みます。

- ・校舎中央に光庭を配置し、自然採光・通風を積極的に取り入れる計画とします。
- ・屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを活用します。



《 新しい時代の学び舎のグランドデザイン 》

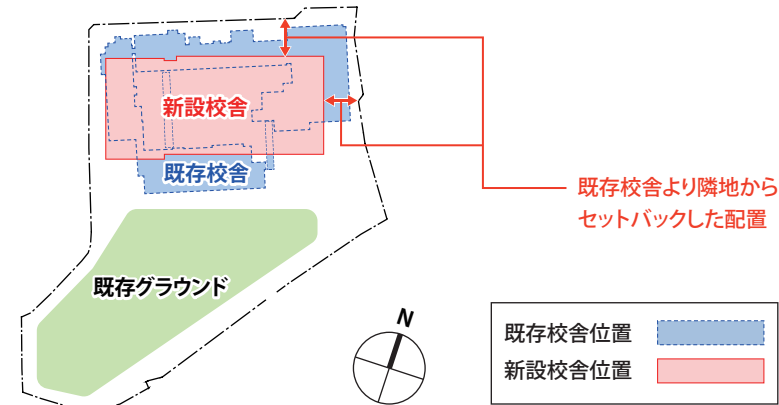


「新しい時代の学び舎のグランドデザイン」を踏まえ、西武中・野田中両校の歴史や文化、地域活動を紡ぎながら、この地ならではの新たな西武中学校を目指します。

イ. 総合

1. 配置計画

- 既存の中学校は敷地北側に校舎棟(3階建て)、屋内運動場などの必要施設が建ち、南側がグラウンドとして利用されている。
建替え後は配置計画に大きな変更はないものの、校舎棟を4階建てとし平面をコンパクトにすることでグラウンドを拡大し、第1グラウンドに200mトラックを設ける計画とする。また近隣の圧迫感や日照環境の改善のため、既存より隣地からセットバックした配置とする他、建物の北側ボリュームを抑えた計画とする。



- 屋内運動場は日常的な地域開放を行う他、災害時の避難所としても利用するため、入口に近い西側に配置する。
- 敷地南西側に、道路地盤面からグラウンドに続くスロープを含む屋外倉庫棟を設けることで、敷地南西側からも車両・歩行者が敷地内にアクセス可能な計画とする。また屋外倉庫棟と校舎棟の間には大型バスの転回・整列が可能な広場を計画する。
- 歩行者、自転車、自動車の出入口を分離させる。
歩行者は既存正門近くに整備する正門からアクセスする。
自転車で通学する生徒は主に北側からアクセスするため、敷地北西側に自転車門を整備する。
自動車を使用する職員はいちよう通りから見渡せる南西新設門からアクセスすることで、車両をいち早く敷地内に導き、幅の狭い西側道路の交通環境を改善する。
- 駐輪場は敷地東側に設けることで、職員の目が行き届く配置計画とする。自転車で通学する生徒は敷地北側・東側を通る自転車用通路を通り、安全に駐輪場にアクセスする。



2. 平面計画

(1) 動線計画

- ・ 来客用出入口は基本的に昇降口側とし、事務室で受け付け防犯管理がしやすいよう配慮する。
- ・ 駐車場よりスムーズに校舎へアクセスできるよう、校舎北側に開放用および職員用出入口を設け、生徒とは分けた明快な動線を計画する。
- ・ 車いす使用者駐車場から近くなる位置に開放用出入口を設け、施設開放時のバリアフリーに配慮する。

(2) 校舎の構成

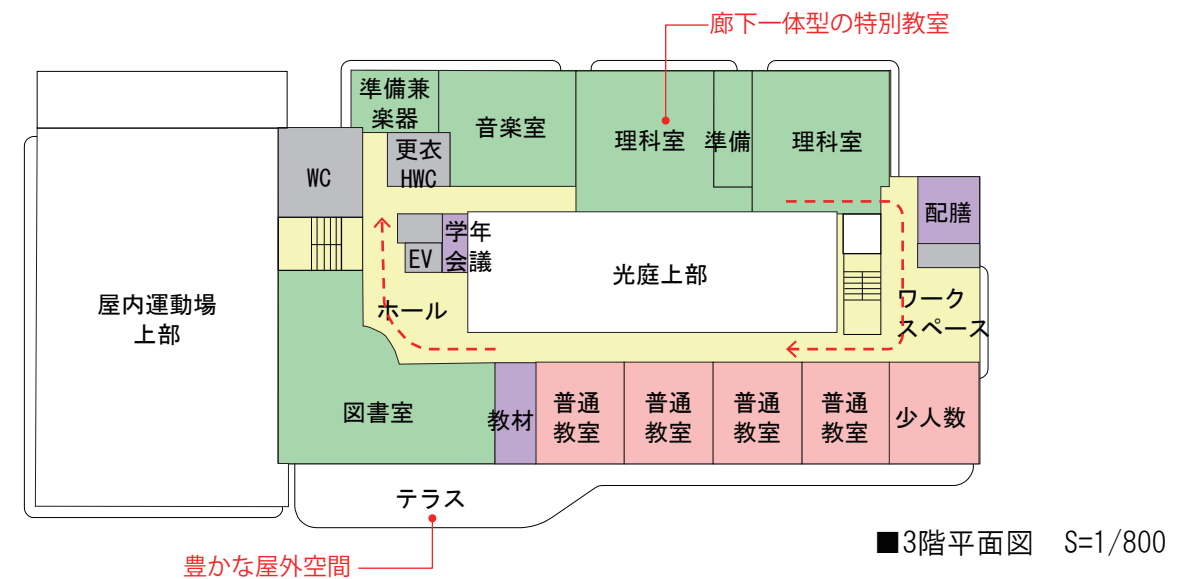
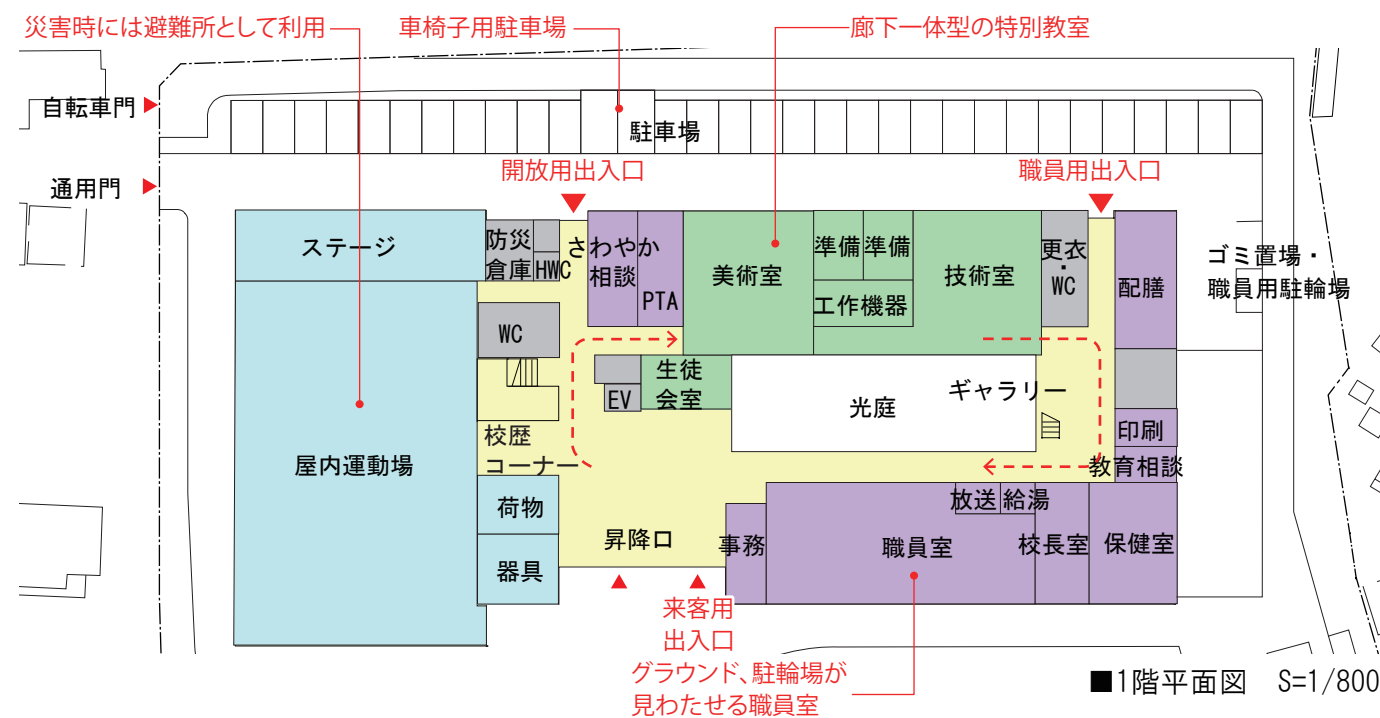
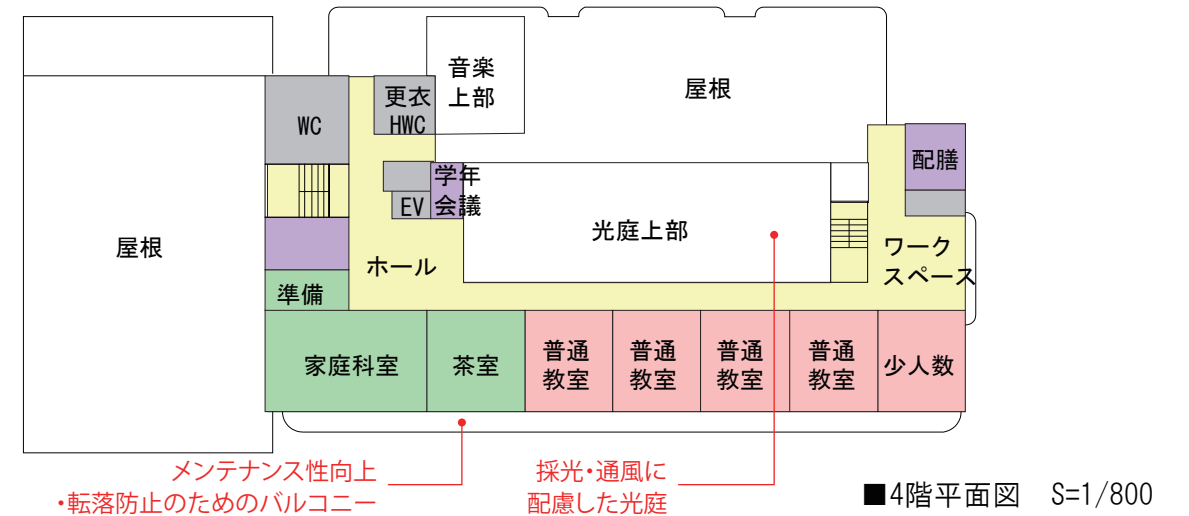
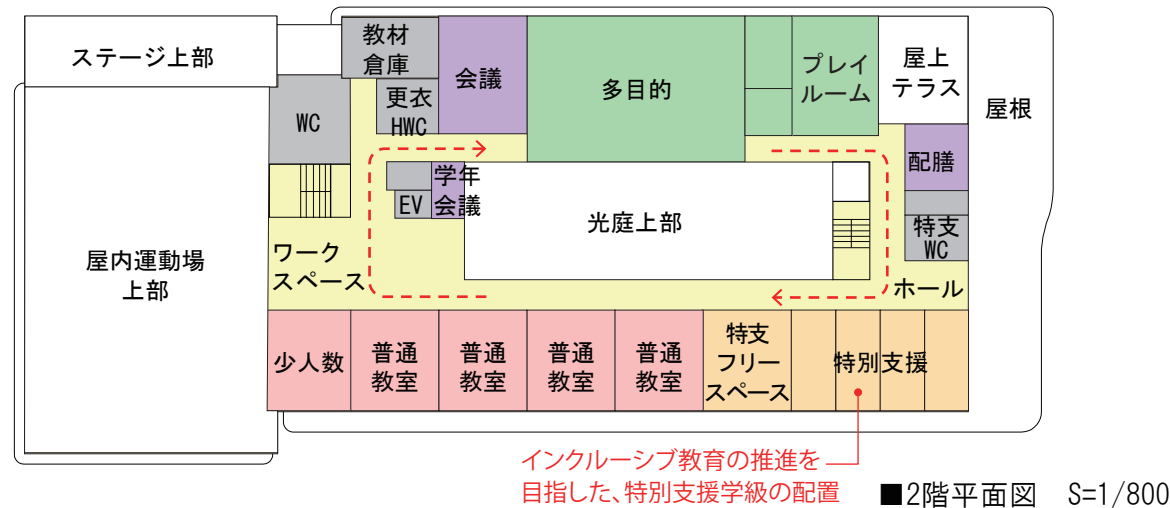
- ・ 1階は管理・配膳・特別教室ごとにまとまりのある配置にすることで運用しやすい計画とする。
- ・ 2階から4階は、普通教室ゾーンと特別支援学級ゾーンを南側、特別教室ゾーンを光庭に面した北側、中央に階段やホール・ワークスペースをまとめ、それぞれのゾーンを明快なものとし、回遊性があり多様な学びの姿に対応できる計画とする。
- ・ 校舎中央に光庭を設け、北側諸室の採光および校舎全体の通風に配慮した計画とする。

- ・ 廊下一体型の特別教室を設けることで新たな形態の学びの場を計画する。

- ・ 生徒の登下校時通る階段と来客者の目につく昇降口に面して、西武中学校・野田中学校の歴史や記念品を継承する場「校歴コーナー」を計画する。
- ・ 外壁開口部にはバルコニーを設け、施設メンテナンス性の向上と生徒の転落防止や落下物へ配慮した計画とする。

(3) 安心安全な避難施設としての設え

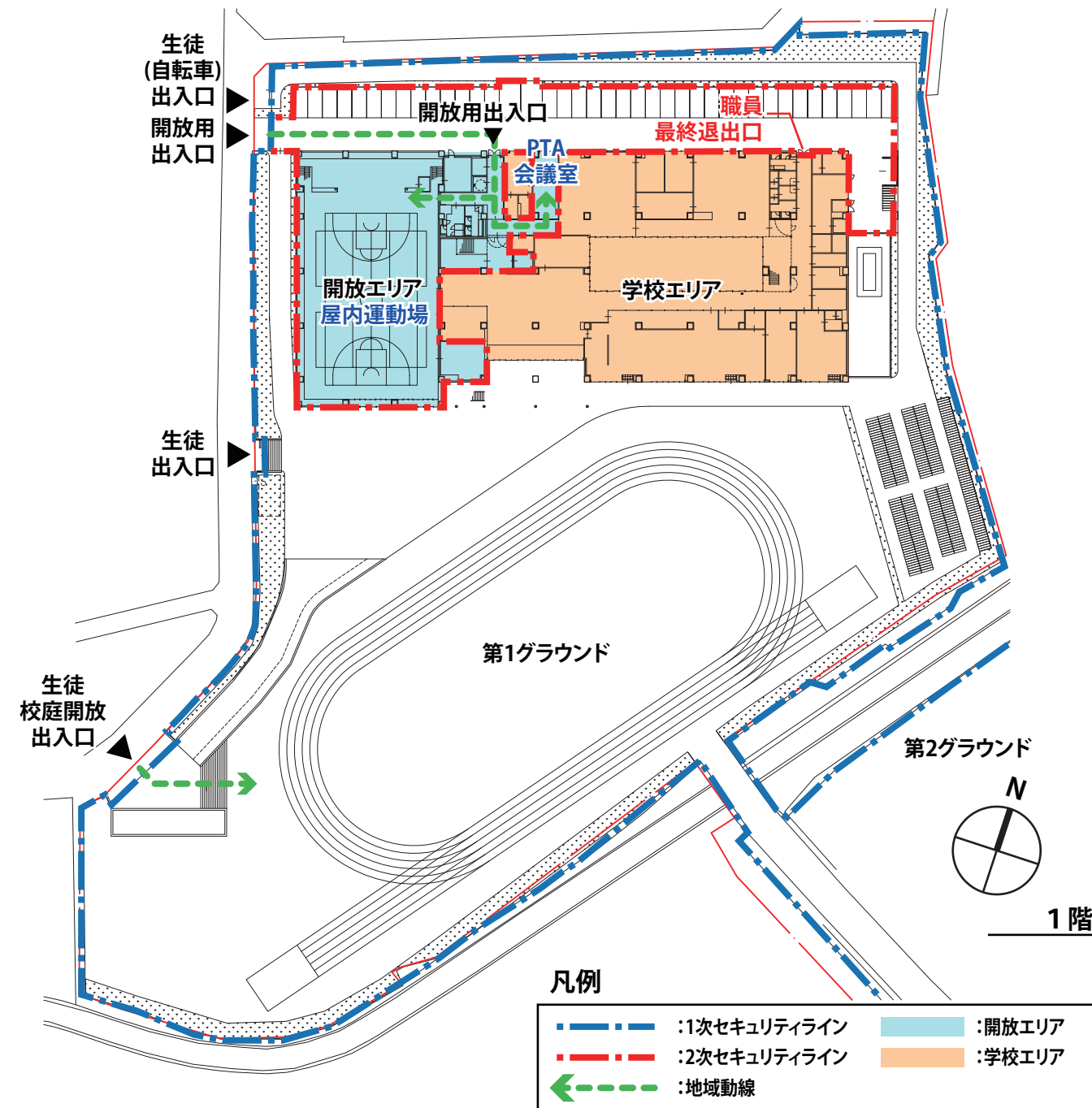
- ・ グラウンドと駐輪場が見渡せるよう、職員室は校舎中央南側の1階に計画する。
- ・ 平常時の地域開放を考慮したセキュリティ計画とともに、災害時に主要な避難場所となる屋内運動場は外部からいち早くアクセスできる1階に計画する。
- ・ 屋内運動場付近に防災倉庫を配置するとともに、防災上必要なマンホールトイレ等を設置し避難生活時に配慮する。
- ・ 屋内運動場は避難所として空調が確保できる防災計画とする。



3.地域開放・セキュリティ計画

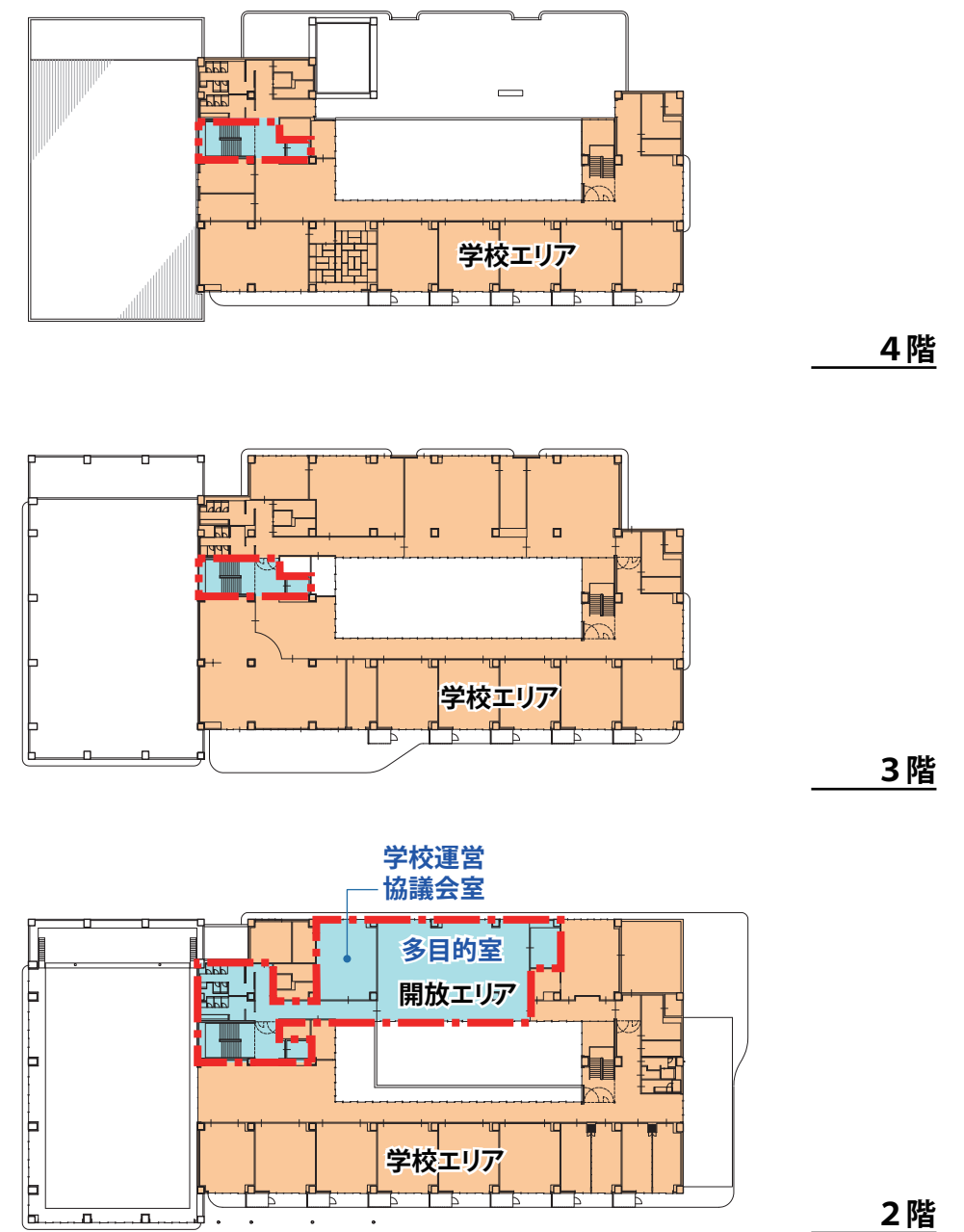
(1)地域開放 ※下記内容をもとに、実施設計段階にて協議を行ったうえで方針を確定する

- ・屋内運動場開放時は、校舎北側の開放用出入口を利用するものとし、校舎内でセキュリティ区画を設けることで、屋内運動場のみを単独で利用できる計画とする。
- ・PTA会議室は開放エリア内に含め、地域住民の会議室として計画する。
- ・多目的室を地域利用した場合に備え、同一階のトイレが利用できるようにセキュリティラインを検討し、多目的室のみも単独で利用できる計画とする。
- ・開放エリア内にエレベーターを含めて、多目的室へのバリアフリー動線を確保する。
- ・校庭開放時は、南西側新設門からアクセスできるようにし、グラウンドのみでも単独で利用できる計画とする。



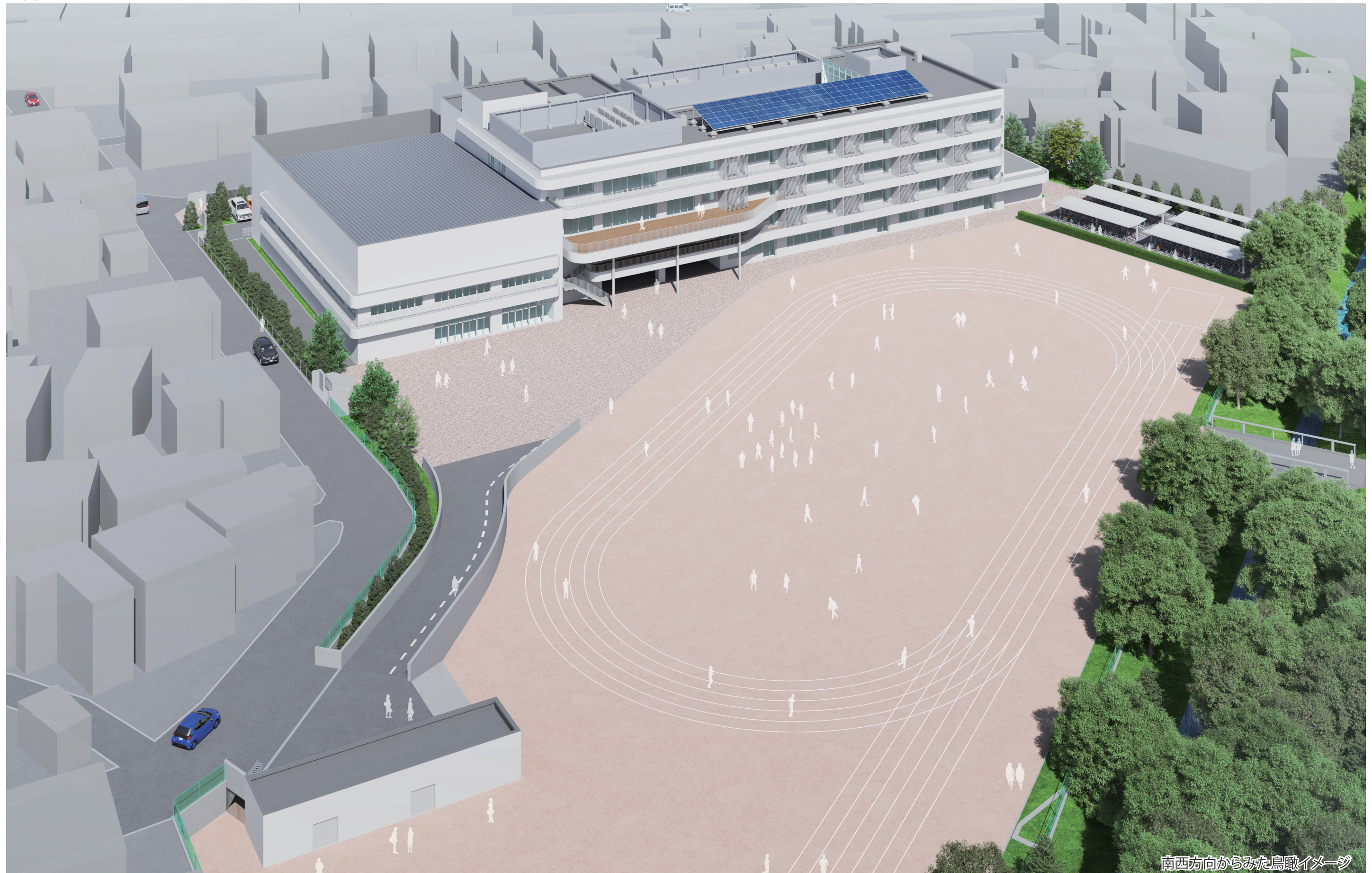
(2)セキュリティ計画 ※下記内容をもとに、実施設計段階にて協議を行ったうえで方針を確定する

- ①機能ごとにまとまりのあるゾーニング計画
 - ・学校エリア、開放エリアを機能ごと及び近接階にまとめることで、それぞれのエリアで管理がしやすい計画とする。
- ②各エリアのセキュリティ
 - ・正門、南西側の新設門、北西側の通用門には電気錠を設置し、室内より来客対応・開錠操作が可能なよう検討する。
 - ・建物の主要出入口にはシリンダー錠を設置する(鍵は教職員にて管理)。
 - ・放課後や夜間・休日など、人的な監視が行き届かない場合を考慮し、機械警備を導入する。
 - ・最終退出口は、昇降口とは別に設けた職員用出入口とする。



4.透視図の写し

(1)鳥瞰パース



南西方向からみた鳥瞰イメージ

(2)内観パース①



1階ホールイメージ

(3)内観パース②



3階ワークスペースイメージ